

研究・調査報告書

報告書番号	担当
207	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol craving in outpatients with alcohol dependence: rate and clinical correlates. アルコール依存症の外来患者におけるアルコール渴望の状況: その発生率と臨床所見との相関	
執筆者	
Yoon G, Kim SW, Thuras P, Grant JE, Westermeyer J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Journal of studies on alcohol. 2006 Sep; 67(5): 770-7	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール渴望、禁断症状	
要 旨	
<p>背景:</p> <p>アルコール依存症患者において、アルコールに対する渴望は重要な所見であり、断酒を妨げる重大な原因である。しかし、アルコール依存症患者で、どの程度の頻度で渴望症状があるのか、またその重症度についてはよくわかっていない。</p> <p>目的:</p> <p>退役軍人用クリニックの外来患者においてアルコール依存症として登録された患者で、アルコール渴望症状の発生率と重症度を評価した。またアルコール渴望症状とアルコール依存の重症度や精神状態などの臨床所見との相関も解析した。</p> <p>方法:</p> <p>退役軍人のための中毒患者用クリニックにアルコール依存症として登録された 101 人の外来患者を対象とした。渴望症状は Penn アルコール渴望症状スケール (Penn Alcohol Craving Scale) を使用して判定、またアルコール依存の重症度および臨床所見は、中毒症重症度指数 (Addiction Severity Index)、経時的遡り法 (Timeline Followback method) 等で評価した。アルコール渴望症状は 3 つのグループ (軽症、中等症、重症) に分け、3 群間における個人の特性や臨床所見の違いを比較した。重回帰分析を用いて、渴望症状とその危険因子の関連を検討した。</p> <p>結果:</p> <p>アルコール渴望症状の重症度の有病率は軽症が 46%、中等症が 29%、重症が 25%であった。この 3 群を調整なしで比較すると、重症群は有意に、最近 30 日以内のアルコールスコア (30 日以内の飲酒回数、飲酒量、多量飲酒の回数) が高く、過去 1 年以内の重症のアルコール依存である率が高かった。重回帰分析では、アルコール渴望症状はアルコール依存症の重症度、禁断症状、うつ症状と関連があり、渴望の 50%はこの 3 項目 (Partial R²: アルコール依存症の重症度 (42%)、禁断症状 (5%)、うつ症状 (3%)) で説明されることを明らかとした。</p> <p>まとめ:</p> <p>外来で治療を受けている患者のアルコール渴望症状には大きな幅がある。またアルコール渴望の重症度は、アルコール依存症の重症度や、禁断症状、抑うつ症状に直接影響される。</p>	